

風's・風のたよりオンライン版

2001/1/23 No.36

2001年1月20・21日「ガイアシンフォニー（地球交響曲）」1・2・3番上映の余韻が...

■お礼の電話・FAX・メールが.....

23日、月曜の休み明けに店に行ったらお礼のFAXが入っていました。家に帰ったらハガキが、メールを開けばコアスタッフのところに届いた感想のメールと一緒に、「息子が、4番の上映の時もボランティアしたいって...」と嬉しいメール。

■興奮さめやらぬ面持ちで....

23日、店に顔をだしたコアスタッフの一人は、なんだかあの日の顔のまま、うれしそうに私に余韻の確認をする。

ガイアシンフォニー第3番を見たある人は「見なければよかった」とも.....。自分にむきあう映画だった。いい意味での「見なければ...」といううめきのような感想。そんな彼女は入院した折りに読んだ星野道夫さんの何冊かの本は時にひもとき、こころ休めるとか....。

■会場のスタッフに暖かい目が

今回はいくつかの市民それぞれのネットワークを通じて情報は流れたようです。野菜の宅配のネットワークもそうですし、月々会員さんに発行している会報誌にもいくつか載せて頂いて、ひたひたと一人一人に情報が伝わっていきました。

そして、また当日は動きまわるスタッフの面々を「いい雰囲気だね」と暖かく見守っていたという話も伝わってきました。本当に嬉しい話です。

■「こんどいつやるの?」

この問合せも数件かかってきます。連絡先が風's(ふ〜ず)の店なので普段は「ふ〜ず」で出ていましたが、先週はほとんどガイアシンフォニーの問合せだったので「GAIAの会」で電話にでていました。それなので、今週もまだ「GAIAの会」でそろそろ頭を切り替えても思っている、会う人ごと「よかったね〜」と感想を述べ合うここ2日です。

■ハガキを下さったSさんより

「今日の地球交響曲とても良かったです。最初は私にとっては、レベルの高い映画だと思いました。(この映画を見るレベルには達していないと感じたのです)でも見て本当によかったです。2/10のバレンタインコンサートにも参加させていただきますのでよろしくお願ひします。お店で売っていたチョコレートが好評だったので、2/10に買って配りたいです。」とありました。

■夢を語る、目が輝くGAIAの会

打ち上げのひとは本当にハッピーな空間でした。一人では味わえない、それまでの過程を共有した喜びがありました。

それを同席した当日ボランティアスタッフの中学生・高校生・浪人生が見ていた。輝く大人の顔をみて

いた筈。そうだよ、大人たち大いに夢を語り、歩こう！ 行動しよう！

子どもたちもついてくる、もっと目を輝かせながら....。そう思う今、まさに21世紀の子どもたちにつなげるなにかを一緒に奏でているのでは....と思いました。観客も企画者もみんな奏でるガイアシンフォニー。

■たった2日前なのに....

過ぎ行く時間のかなしさ、うれしさ、また新たに一瞬一瞬が積み重なってゆく....。私自身は、死と隣り合わせの緊迫感がないままに生きている。

生きている限り、死は隣りあわせなのに今現在、死ぬとは思えない。

やさしかったり、自然体だったり、そんなやすらぎを感じる人は死を感じた人のような気がする。死を受け入れた人。

一瞬一瞬の生が、一瞬一瞬の死とも相対していることを実感するのはいつだろう。そんなことをガイアシンフォニー第3番は、撮影直前にカムチャッカ半島でクマに襲われ亡くなった故星野道夫氏が中心に描かれているので、死について考える機会になった。

■ともかくやさしさを感じる映画でした

映画での登場した彼らが生きている。また生きていた。だから私も.....というような感じがする。しだいに涙ぐむようなやさしさが自分のところに広がる。

土井ゆきこ

★フェア・トレードとは....

フェア・トレードとは、発展途上国の有機栽培食品や手工芸品等を、公正な価格で取引し、仕事創りから技術支援もする、世界のNGO(非政府組織)を中心に繰り広げられている草の根交流です。より多くの人々が、フェア・トレードによる商品を選んで買うことが、発展途上国と共に生きる方向が見えてきます。

『GAIAの会』は、1996年5月発足。女と男、老人と若人、障害をもった人と今そうでない人、南と北の国の人、自然と人...「共に生きる」をテーマに互いに学び合いながら行こうとする誰でも気軽に参加できる会です。
